

# アブラハム契約創世記 15 章の分節化

## —信仰義認の前と後—

私が心に信じて義とされるとは、義である神が私を義であると宣言することです。自分が他人がどうこう言える問題ではない、一切は神の決定です。その出来事の最初がどのようであったのか、聖書にはどのように記されているのかを探ってみたいと思います。

結論を先取りしますと、創世記 15 章の契約の分節化を提案します。イエスの弟子たちが初臨と再臨のメシアを分節化できずに混乱しました。創世記 15 章の信仰義認前後の契約の分節化は今日の私どもにとっても非常に大きな意味があると考えます。主からお預かりした 1 タラントを土の中に埋めるのではなく霊的投機をすることにしました。

内容は既にみなさんが知っているに違いないことなのですが、敢えて意識化・言語化することが大切であると考えて提案として書かせていただきます。(聖句は新改訳 2017、ロマ書は千葉恵訳：「信の哲学」収、ヘブル語・ギリシャ語は Bible Hub より)

まずはアブラハム契約のプロトタイプを提示し、ロマ書 3 章 22 節の議論にも通じる信仰のとらえ方について記したあと、アブラハム契約分節化の物的証拠となる聖句、続いて、状況証拠となる聖句を挙げ、最後に私どもを生かす聖霊の働きを見て稿を閉じることにします。

### 1. アブラハムに与えられた恵みの契約—出発点と着地点

#### 創世記 12 章 1～3 節

- 1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。
- 2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。
- 3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

望みなき人類を救済する神の壮大なご計画の第一歩は、創世記 12 章 1 節アブラハムによって踏み出されました。下表はメシアニック・ジューのフルクテンバウム先生が述べておられることに基づいて作成したものです。

神が一方向的にアブラハムに約束された④アブラハム契約のプ



ロトタイプが創世記 12 章 1~3 節です。それが⑥土地の契約、⑦ダビデ契約、⑧新しい契約に発展してゆきます。今回記す内容は、創世記 15 章に記されているものです。表の下の方に赤字で記される 15 章 6 節の信仰義認の前後（表では上下）に二つの契約が記されており、15 章 5 節の契約が黙示録 21、22 章の新天新地で、15 章 18 節の契約が黙示録 20 章の千年王国で着地する・成就される、と提案します。以下、物的証拠および状況証拠となる聖句を挙げて説明します。

## 2. 信仰義認とアブラハム契約 一神の絶対的主権

創世記 15 章 5~6、18 節

5 「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。

「あなたの子孫は、このようになる。」

6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

18 「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで。

15 章 6 節「アブラムは【主】を信じた」(「ヴェヘエミン・バドナイ」 בְּיְהוָה אֱמַן)は銘形先生も指摘しているように主によって信じさせられたということであると考えます。アブラムの同意を含んでいると考えられるので「信じた」と訳されているのでしょう。この点は大事です。אֱמַןをどうとらえるか、「バドナイ」(בְּיְהוָה)の「ベート」(ב)を in ととらえて He believed in the Lord とするのか、by ととらえて He was supported to confirm by the Lord とするのか。これは多年にわたるロマ書 3 章 22 節の議論と質を同じくします。πιστεως Ἰησοῦ Χριστοῦ で (ガラテヤ書 3:22 でも)、(人が) イエス・キリストを信じる「ピステイス」πιστις なのか、イエス・キリストが (父なる神を) 信じる πιστις なのか、千葉恵が言うようなイエス・キリスト (帰属) の πιστις であるのか、いずれの立場をとるのかによって、神の主権の重さ (栄光) の色合いが変わってきます。ヘブル語の多義性を尊重して両方の意味にとることもできますが、本論考では神の主権 (千葉訳) を最優先することにします。

II テモテ 2 章 13 節 「私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。ご自分を否むことができないからである。」

ここでの「真実」はピストス πιστός(ピステイス πιστις の形容詞)です。私どもの πιστις に依拠する歩みは当てになりません。自分の悟りに依拠した士師記の時代のように危険極まりないものです。箴言 21 章 2 節「人には自分の歩みがみなまっすぐに見える。しかし、【主】は人の心を評価される」のです。私どもはイエス・キリスト帰属の πιστις にすぎるしかないと考えます。

15 章 6 節 「それで、それが彼の義と認められた」(הִתְקַדְּשָׁה לוֹ צְדָקָה)の「認められた」(「ハーシャヴ」בִּשְׁבַח)には数えるという意味があることも大事です。というのは、ロマ書 4

章 3 節でも何と言っているか、「アブラハムは神を信じた、それで、それが彼の義と認められた」における「義と認められた」(「ロギゾマイ」 λογίζομαι)も「カウントされた、数えられた」という意味です。15 章 5 節「星を数えられるなら数えなさい」(「セフォール」 ספּוֹר)も「カウントしなさい」ということです。星を数えるのと同じように神の義がアブラハムの義と認められた、カウントされたとはどのような事態であるのか、ここでは触れられません大切な問題です。主権者の神により一方的に義と数えられる、ということです。

### 3. アブラハム契約着地点の分節化 —物的証拠

さて、前置きが長くなりましたが、今回提案したいのは二つの単数、15 章 5 節の『あなたの子孫は』(「ザルエハー」 זָרְעֶךָ)と 15 章 18 節の『あなたの子孫に』(「レザルアハー」 לְזָרְעֶךָ)の分節化です。因みに、

12:7,13:15,13:16,13:16,15:3,15:5,15:13,15:18,16:10,17:7,17:7,17:8,17:9,17:19,21:12,21:13,22:17,22:17,22:18 など、アブラハム関連でゼラ(צֶרָא)の出てくる箇所はヘブル語原語では単数ですが、KJV 以外の英語訳では(筆者の見た限りにおいては)複数形になっているようです。ただし、種(seed)の意味の場合は単数扱いです。

さて、パウロはここをどのように解釈しているのでしょうか。

ガラテヤ人への手紙 3 章 16 節

「約束は、アブラハムとその子孫・・・神は、「子孫たちに」と言って多数を指すことなく、一人を指して「あなたの子孫に」と言うておられます。それはキリストのことです。」

創世記 15 章 18 節の契約は「わたしはこの地を与える」とあるので、後に展開される⑥土地の契約(モーセ律法に重なるように申命記 29 章ホレブで結ばれた契約とは別のものとして約束されます)です。その成就是同時に⑦ダビデ契約(IIサムエル記 7 章)の成就是もあります。では、「それはキリストのことです」とは何のことでしょう。パウロのミドラッシュは鳥肌が立ちます。もう少し読み進めてみます。

ガラテヤ人への手紙 3 章 26~29 節

26 あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。

27 キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。

28 ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。

29 あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

キリストを着るとはキリストと同一化されるということです。死んで葬られ甦ったキリストのものであると自覚させていただくことです。それは、アブラハム契約の成就是であり

キリストの共同相続人と認定されるということです。ロマ書によれば「苦難を共にしている」ことです(8:17)。それは「御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもってとりなし」(8:26) くださることに依拠することによってのみ可能になると考えます。

創世記に戻ります。アブラハムの苦渋に満ちた思いを受けて【主】が語ります。

15章4節「すると見よ、【主】のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いではない。ただ、あなた自身から生まれ出てくる者が、あなたの跡を継がなければならない。」

「あなた自身から」は「ミメーエーハー」(מִמֵּעֵי הָאָדָם)です。エレミヤ 31章20節の「はらわた・わななく」(מֵּעֵי הָאָדָם・הָאָדָם)の「メーエー」です。イザヤ 63章15節の「たぎる思い」です。モアブに対しても「はらわた・わななく」(イザヤ 16:11)ほどに愛しておられる神の愛。創世記 15章4節で神のはらわたとアブラハムのはらわたの思いが重なったので、創 18章17節と同じように隠せなくなった神が、はらわたの友アブラハムに 15章5節を語られたと考えます。キリストは放蕩息子を(ルカによる福音書 15章)、瀕死の人を(同 10:30) スプランクニゾマイ (σπλαγγνίζομαι) されますが、その深い思いは「メーエー・ハーマー」であり、父と子一つです。

父なる神はイエスの手にすべての支配権を委ねられました。イエスは私どもに永遠のいのちを与えてくださいます(ヨハネ 3:35,13:3, 17:2)。そのイエスは異邦人の信仰を知って驚き喜び(マタイ 8:10,15:28)、ユダヤ人の不信仰に嘆き悲しんでいます(マタイ 11:21)。使徒パウロもしかりです(ロマ 9:2)。

I サムエル 15章で悔やむ(ナーハム נָחַם) 神が記されています。最初読んだときは戸惑いました。私の神が悔やむのはおかしいと思いました。聖書自体も悔やむのか悔やまないのか揺れています。これが神のはらわたのわななきです。そして、16章7節で神はうわべではなく心を見ることが記され、ダビデが選ばれました。ダビデを選ばれた神、うわべではなく心根を見られる神が創世記 15章4節で、はらわたわななくアブラハムと思いをひとつにされました。そして、15章5節で「星を数えなさい」と言われました。

アブラハムは信じさせていただきました。義とさせていただきました。はらわたを同じとみなされ、義なる神がアブラハムをも義とみなされたのです。アブラハムは自分の子孫が無数になるということ信じさせていただけでなく、その子孫から出てくるお一人の神の子キリストを信じさせていただきました。「女の子孫」であるキリストが自分のはらわたから出てくることを信じさせていただきました。その約束が黙示録 21、22章で成就すると私は考えます。以上が、15章5節の契約は黙示録 21、22章の預言と考える物的証拠です。

詩篇 34篇18節【主】は心の打ち砕かれた者の近くにおられ霊の砕かれた者を救われる。

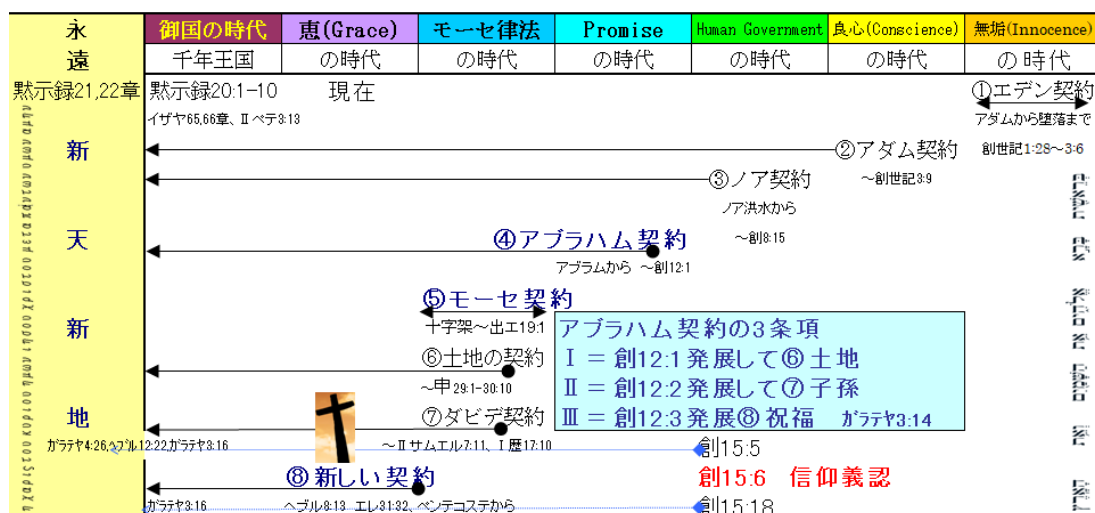
#### 4. アブラハム契約着地点の分節化－状況証拠

状況証拠はたくさんあります。一部を紹介します。

- ①ガラテヤ 4 章 26 節 「しかし、上にあるエルサレムは自由の女であり、私たちの母です。」
- ②ヘブル 11 章 8 節 「信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。」
- ③同 11 章 9 節 「信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。」
- ④同 11 章 10 節 「堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。」
- ⑤同 12 章 22～23 節 「しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、」

ヘブル書はパウロによると考えます。奥義の啓示に満ちたヘブル書がないと旧約聖書の真理は理解できません。パウロはⅡコリント 12 章 2、4 節でハルパゾー(ἄρπαζω)させられて(第三の天にまで引き上げられて)、語ってはならぬことばを聞きました。そして、同胞はらからの信者に向けて、はらわたから記したのがヘブル書であり、神はそれを嘉せられたのだと考えます。

イザヤ書やⅡペテロの新天地を黙示録の新天地と同一視する見方が一般的であるようですが、私は創世記 15 章の分節化の上で、アブラハム契約の成就として千年王国と新天地を思い描きつつ再臨の主を待ち望みたいと思います。



尚、私どもが心しておかなければならないのは、④アブラハム契約以降のすべての契約

はユダヤ人に与えられたものである、⑧「新しい契約」はエレミヤ書 31 章で預言的にユダヤ人に与えられたものである、私ども異邦人が御霊の実を結べるのも使徒パウロがエペソ書、ロマ書などで記したように、アブラハム契約につながっているからである、異邦人の女がイエスからパンくずをいただいたように（マタイ 15 章、マルコ 7 章）、私どももおこぼれをいただいているオリーブの接ぎ木の枝にすぎない、それは創世記 12 章 3 節に根拠がある、ということです。

恵みあふれる神は、あらゆる知恵と思慮をもってみこころの奥義を使徒パウロを通して明らかにされました。

#### エペソ人への手紙 1 章 10～12 節

10 時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集められることです。11 またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。12 それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。

### 5. アブラハム契約成就に生きる聖霊の宮 — さやかに星はきらめき

私は 2018 年 9 月 6 日 3 時 8 分、震災を経験しました。直後よりブラック・アウトを経験しました。そして、上を見ると、さやかにきらめく満天の星。感動しました。アブラハムも感動したことだろうと思いました。その感動は黙示録 21、22 章で成就すると考えます。その前に黙示録 20 章のメシア王国があり、それもアブラハムとダビデに約束されたものがあります。また、黙示録には 6 章から 19 章の患難もあります。ユダヤ人の救いを真剣に祈る者でありたいと願わされます。

創世記 12 章 3 節「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」は、ガラテヤ書 3 章 14 節で成就しております。ガラテヤ書 3 章 14 節「それは、アブラハムへの祝福がキリスト・イエスによって異邦人に及び、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるためでした。」

創世記 15 章 5 節のアブラハムのはらわたと重なったとき、私どものはらわたからは聖霊様がほとばしり出ます。これはイエスの証言です。

ヨハネ 7 章 38 節「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

私どもは聖霊の宮です（Ⅰコリント 3:15,6:19、Ⅱコリント 6:16）。千年王国では神殿から生ける水の川が流れ出て死海が生ける魚で満ちます（エゼキエル 47 章）。聖霊様の壮麗なシンフォニー、創世記 15 章 18 節の成就是想像を絶します。その後創世記 15 章 5 節

の成就を見ます。想像をはるかに絶します。

さやかに星はきらめき 御子イエス生まれ給う  
長くも闇路をたどり メシヤを待てる民に  
新しき朝は来たり さかえある日は昇る  
いざ聞け 御使い歌う 妙なる天つ御歌を  
めでたし 清し今宵

使徒の働き

1 章 3 節 「イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きてい  
ることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。」

28 章 31 節 「少しもはばかることなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、  
主イエス・キリストのことを教えた。」

イエス、使徒パウロ、そして今は「勝ち得て余りある者」(2017 訳では「圧倒的な勝利者」、  
ロマ 8:37) である私どもが「神の国」を宣べ伝えています。この度、うめきをもってとり  
なしてくださる「はらから」の友とともに、一歩立ち止まって天を見上げ「神の国」を再  
確認いたしました。

2018 年 12 月 21 日 夜空にダビデの星を探しつつ筆を置きます。

栄福音キリスト教会 千丈 雅徳